



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 s M e d i o

代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岩 本 定 則

(コード番号：3913 東証マザーズ)

問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 北 埜 弘 剛

(TEL. 03-6262-8660)

**特別損失の計上ならびに平成 29 年 12 月期通期の連結業績予想と実績との差異
および個別実績の前期実績との差異に関するお知らせ**

当社は、平成 29 年 12 月期において、下記の通り、特別損失を計上いたしました。

また、これにより、平成 29 年 11 月 10 日に公表しました平成 29 年 12 月期通期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じたこと、および個別実績の前期実績値との差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社の連結子会社である株式会社情報スペース（以下、「情報スペース」）における業績が悪化し、平成 29 年 12 月期には、数百万円の営業赤字を計上いたしました。

また、情報スペースでは、受託開発収入以外のロイヤリティ収入および月額課金収入が、買収時（平成 27 年）の計画を下回っていたこともあり、同社が行う事業に係る損益見直しを見直した結果、平成 29 年 12 月期において、のれんの未償却残高（平成 29 年 12 月末時点で 35 百万円）および関連する資産（同 4 百万円）の全額を減損処理することといたしました。

以上の結果、39 百万円を減損損失として計上いたしました。

なお、個別決算においては、連結決算における減損処理に伴い、関係会社株式評価損 71 百万円を計上したことに加え、平成 29 年 7 月 1 日付で実施した当社の連結子会社である株式会社ブイログの吸収合併に伴う抱合せ株式消滅差損 51 百万円を計上いたしました。

2. 平成 29 年 12 月期通期連結累計期間の業績予想と実績との差異

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	1,058	△59	△61	△97	△48円56銭
実績値(B)	1,056	△60	△61	△141	△71円21銭
増減額(B)-(A)	△1	△1	△0	△44	—
増減率(%)	△0.2	—	—	—	—

3. 差異の理由

連結売上高は概ね予想通りに推移し、原価率も概ね予想通りの結果となりました。

また、販管費も概ね予想通りに推移し、為替による影響も軽微であり、営業損益、経常損益ともに、概ね予想通りの結果となりました。

しかしながら、上記1. で記載いたしました通り、減損損失 39 百万円を特別損失として計上いたしました。

この結果、親会社株主に帰属する当期純損失が 141 百万円となり、前回発表予想を下回りました。

4. 個別実績の前期実績値との差異

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
平成 28 年 12 月期実績(A)	1,017	143	10	1	0円71銭
実績値(B)	716	△81	△84	△212	△106円38銭
増減額(B)-(A)	△311	△225	△94	△213	—
増減率(%)	△30.3	—	—	—	—

5. 差異の理由

国内 PC 出荷台数の低迷により、ロイヤリティ収入が落ち込んだ影響および開発案件の反動減により、売上高が大きく減少しました。

顔認証 AI に関する投資を継続していることや本社移転による一時的な費用が発生したこともあり、売上高の減少の影響を補えず、営業損益、経常損益ともに赤字となりました。

また、下記 2 つの事象を、平成 29 年 12 月期において、特別損失として計上したことで、当期純損失 212 百万円となりました。

(当社と株式会社ブイログとの吸収合併)

株式会社ブイログは累積損失を抱えていたため、吸収合併時に、抱合せ株式消滅差損 51 百万円を計上しました。

(関係会社株式評価損)

情報スペースの純資産価額が、投資簿価を大きく下回り、回復可能性がないと判断し、関係会社株式評価損 71 百万円を計上しました。

以 上